

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：32525

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K19543

研究課題名（和文）自由記述解答の分析を通じた看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの比較

研究課題名（英文）Comparison of nurses' work-family conflict through analysis of free-text answers

研究代表者

鈴木 康宏（SUZUKI, Yasuhiro）

千葉科学大学・看護学部・准教授

研究者番号：60737170

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：病院で働く看護師を対象にマイクロソフトFormsによるアンケートを実施し、看護師のワーク・ファミリー・コンフリクト（仕事での役割と家庭での役割による役割間葛藤）を測定し、看護師が仕事が続いているうえでの妨げとを感じるもの・支えとを感じるものについての自由記述を収集した。えられたデータをテキストマイニングの手法を用いて可視化し、コンフリクト（葛藤）が高い看護師と低い看護師が使用する言葉の特徴について、それぞれ明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人口減少が続く中、高齢社会を迎える日本においては労働者の確保は急務である。これは、資格職である看護師についてもこれは変わりはない。仕事を続けている看護師のワーク・ファミリー・コンフリクト（役割間葛藤）と看護師が仕事が続いているうえでの妨げと支えとなるものについて、どのような関係性があるかをテキストマイニングの手法を用いて明らかにすることは労働環境の整備も含め、看護管理上、有意義なものであると考える。

研究成果の概要（英文）：We conducted a Microsoft Forms questionnaire targeting nurses working in hospitals to measure nurses' work-family conflict (conflict between roles at work and at home). We collected free descriptions from nurses regarding what they feel is a hindrance to their work and what they feel is support.

By visualizing the obtained data using text mining techniques, we were able to clarify the characteristics of the words used by nurses with high and low levels of conflict.

研究分野：看護

キーワード：看護師 ワーク・ファミリー・コンフリクト 働き方

## 1. 研究開始当初の背景

平成 27 年版厚生労働白書に書かれているように日本の人口減少が見込まれていることから、労働人口の確保は喫緊の課題といえる。高齢者率が増加し続ける我が国では、医療や介護を支えるために、今後も看護師数を確保し続けていく必要がある。しかし、看護師の離職の問題は枚挙にいとまが無い状態が続いている。日本看護協会(2007)の「潜在ならびに定年退職看護職員の就業に関する意向調査報告書」においても、離職の理由に結婚・出産があげられている。単に人員確保だけでなく、キャリアアップの観点からも、結婚・出産後も仕事と家庭を両立し、安心して働ける環境を整える事が、看護管理における今後の大きな課題といえる。

家庭と仕事との両立により生じる葛藤はワーク・ファミリー・コンフリクト (Work Family Conflict : 以下 WFC) として欧米で提唱され研究されてきた。「仕事から家庭への葛藤」・「家庭から仕事への葛藤」の 2 方向性と、「時間」・「ストレス」・「行動」の 3 形態より構成される 6 次元モデルの下位尺度をもつ WFC 尺度(数値が高いほど葛藤が強い事を示す)が開発されており、日本でも研究が行われている。

研究者は増加し続けている男性看護師と女性看護師の WFC に着目し、研究を実施した(課題番号 15K20677、男性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクト～性別の違いによる比較～)。その中で、男性看護師と女性看護師の WFC に違いがあることを明らかにした。

しかし、研究の限界として、アンケート項目だけでは、WFC に関係すると考えられる個別性のある問題を明らかにできていない可能性があると考えられ、課題となった。そのため、家庭環境やえられるサポートの違いなど異なる環境下で働く看護師に個別的な支援策を検討する上で、仕事と家庭の両立にとって看護師が困難と感じていることや支えと感じていることを明らかにする必要があると考え、本研究を計画した。

## 2. 研究の目的

テキストマイニングを用いた分析を通して、病院で働く看護師の WFC と看護師が仕事を続けているうえで支えと感じることや妨げと感じることの関係性を明らかにすることが目的である。

## 3. 研究の方法

日本国内の病院で働く看護師を対象とし、株式会社アールアンドディの病院年鑑 2021 年版のデータから一般病床数 200 床以上の病院より無作為に 500 施設を選び、看護管理者に対して研究協力の依頼とアンケート説明用紙の配布枚数を書面にて確認した。同意がえられた 34 施設に対して計 5839 通のアンケート説明用紙の配布を依頼した。

調査内容は、対象の属性(性別、年齢、子どもの有無、同居家族、育児支援、要介護者、自己の単身赴任の有無・期間、看護職としての経験年数、看護師養成課程、勤務形態、夜勤の有無・夜勤携帯、新型コロナウイルス患者への対応状況、役職の有無、残業時間、通勤時間など)、WFC 尺度日本語版 18 項目(5 件法: 1. 全くあてはまらない、2. あまりあてはまらない、3. どちらでもない、4. ややあてはまる、5. かなりあてはまる)および自由記述回答(今の仕事を

続けていくことの妨げとなっているもの、今の仕事を続けていくことの支えとなっているもの、看護師を続けている理由)である。

分析ソフトとして EZR ver 1.61 を用いて集計し、テキストマイニングは KH Coder ver 3 Beta.07b に「文錦® レポートニング for KH Coder」のプラグインを用いて実施した。

対象の属性は単純集計を行い、各設問の値の合計値を WFC 値として算出し、全体の平均値および四分位数を求めた。

自由記述回答については KH Coder を用いて共起ネットワーク図および対応分析を行った。対応分析は WFC 値を四分位数で群分けし、上から順に WFC 高群(以下 H 群)、WFC 中高群(以下 MH 群)、WFC 中低群(ML 群)、WFC 低群(以下 L 群)としたものを外部変数として設定し、実施した。外部変数を設定した対応分析では原点付近に布置されている語は、どの変数にも共通した語であることから、原点からの距離が近い順に取り立てて特徴的でない語と判断した。

なお、本研究は「千葉科学大学における人を対象とする研究倫理審査委員会」による倫理審査を受けて実施した(受付番号 R04-17)。研究対象者には、匿名による研究で個人が特定されないこと、研究の不参加による不利益はないこと、回答により研究の同意がえられたものとする事について書面で説明し、実施した。

#### 4. 研究成果

2023年3月中に回答のあった1314件より、不備のない1275件と単身赴任の18件を除いた1257件のデータを用いて分析した。

対象の属性とWFC値については以下の表のようになった。調査対象の属性は、男性が少なく、ほとんどが女性であった。20代と40代のものの割合が他の年代の割合よりも多く、経験年数は20年以上のものが多く、看護師免許を取得したのは専門学校のものが多かった。常勤がほとんどであり、夜勤は8割近くのものが行っていた。ほとんどすべての施設で新型コロナウイルス患者対応をしており、そのうち勤務病棟で対応するものは6割程度であった。

WFC値の平均は50.75、95%信頼区間は[50.13 - 51.37]であった。このうち、WFC値が58以上をH群、52以上をMH群、44以上をML群、それ以外をL群となるように群別した。

「あなたにとって、今の仕事を続けていくことの妨げとなっているものを教えて下さい。」という自由記述の設問で出現数が多かった語(頻出語)の上位20語は、特になし、仕事(業務)多い、子ども、残業、時間、人間関係、お金・給料(給与)、夜勤、体力、育児(子育て)、勤務、職場(部署)、委員会、通勤時間、少ない、両立、不足、ストレス、看護師、であった。

表1. 対象の背景

		n	(%)
性別	男性	134	(10.7)
	女性	1110	(88.3)
	回答しない	13	(1)
年代	20代	359	(28.6)
	30代	295	(23.5)
	40代	372	(29.6)
	50代	214	(17)
	60歳以上～65歳未満	17	(1.4)
看護師経験年数	1年未満	63	(5)
	1年以上～3年未満	114	(9.1)
	3年以上～5年未満	111	(8.8)
	5年以上～10年未満	165	(13.1)
	10年以上～15年未満	190	(15.1)
	15年以上～20年未満	172	(13.7)
	20年以上	442	(35.2)
看護師養成課程	四年制大学	180	(14.3)
	短大	84	(6.7)
	専門学校	933	(74.2)
	その他	60	(4.8)
役職	あり	329	(26.2)
	なし	928	(73.8)
勤務形態	常勤(フルタイム)	1161	(92.4)
	短時間勤務	60	(4.8)
	パートタイム	28	(2.2)
	その他	8	(0.6)
夜勤	あり	993	(79)
	なし	264	(21)
新型コロナウイルス患者への対応	自分の部署で対応することがある	775	(61.7)
	自分の部署での対応はないが、施設内で対応することがある	471	(37.5)
	自分の施設での対応はない	11	(0.9)
WFC	平均値(SD)	50.75	(11.24)
	95%CI[下限, 上限]	[50.13, 51.37]	

WFC 値を四分位数で群分けしたものを外部変数として設定し、仕事を続ける妨げについて、対応分析を行った結果、特徴的でない語は、仕事(業務)、希望、多い、少ない、であった。H群に特徴的な語は、時間、スタッフ、課題、両立、コロナ、精神、であった。MH群に特徴的な語は、取れる、難しい、体調、忙しい、であった。ML群に特徴的な語は、活動、研修、働く、係、病院、業務以外、疲労、上司、委員会、であった。L群に特徴的な語は、年齢、患者、低い、医師、であった。

「あなたにとって、今の仕事を続けていくことの支えとなっているものを教えて下さい。」という自由記述の設問で出現数が多かった語(頻出語)の上位20語は、家族、特になし、子ども、給料(給与)、患者、職場(部署)、仕事(業務)、友人(友だち)、同僚、同期、存在、生活、協力、スタッフ、趣味、支え、収入、人間関係、時間、自分、であった。

仕事を続ける支えとなっているものについて、外部変数を用いて対応分析を行った結果、特徴的でない語は、家族、お金・給料(給与)、支え、感謝、好き、同期、時間、特になし、であった。H群に特徴的な語は、子ども、成長、であった。MH群に特徴的な語は、人、楽しい、協力、自分、であった。ML群に特徴的な語は、関係、存在、友人(友だち)、休み、であった。L群に特徴的な語は、職場(部署)、先輩、仕事(業務)、であった。

「あなたが看護師を続けている理由について、記入してください。」という自由記述の設問で出現数が多かった語(頻出語)の上位20語は、生活、仕事(業務)、特になし、お金・給料(給

与) 好き、看護師、患者、人、自分、看護、他、収入、家族、安定、楽しい、子ども、経済、職業、関わる、働く、であった。

看護師を続けている理由について、外部変数を用いて対応分析を行った結果、特徴的でない語は、生活、看護、好き、安定、看護師、患者、他、働く、資格、であった。H群に特徴的な語は、養う、多い、収入、であった。MH群に特徴的な語は、家計、アップ、職場(部署)、特になし、経験、取る、仕事(業務)であった。ML群に特徴的な語は、家計、知識、稼ぐ、関わる、アップ、経験、取る、であった。L群に特徴的な語は、合う、役に立つ、社会、関わり、職業、生きる、であった。

以上のように、看護師の仕事が続けていくことの妨げと支え、看護師を続けている理由について、WFC値の違いにより特徴的な語を明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木 康宏
2. 発表標題 看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトによる自由記述の比較 テキストマイニングの分析を通して
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

学会誌に投稿した論文の査読が終了し、年内に発行予定となっている。
----------------------------------

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------